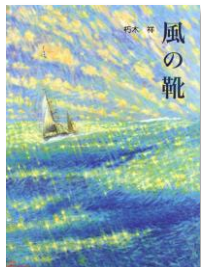


紙版 **ハコブネ×ブックス** vol. 25

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。



風の靴

作者 朽木祥  
出版社 講談社  
発行 2009年3月  
ISBN 978-4062149945

review



志望校に合格できず、仕方なく公立中学に進んだ海生(かいせい)は、高校受験でリベンジするために、中学一年生の夏もまた受験勉強に追われていました。優秀な兄と同じ学校に進学することを求められ、もやもやする気持ちを抱えていた海生は、ついに家出をしようと決心します。参考書を捨てて、海に出る。おじいちゃんのA級ディンギー(船室のないヨット)、ウインドシーカー号を駆って、友人と飼い犬を伴い、風色湾を目指す旅が始まります。秘密の入り江でのキャンプ。自給自足の野外生活。海を照らす輝く月の下で、最高の仲間たちと過ごす。鬱屈した少年の心象が、自然の中で浄化されていく姿が描かれます。まずは光の射す方へ。風の吹いていく先へ。迷っても、軌道修正しながら進めばいい。そんな示唆に富んだ世界がここに広がっています。



春のオルガン

作者 湯本香樹実  
出版社 徳間書店  
発行 1995年2月  
ISBN 978-4198602505

review



私立中学の受験に失敗して、この春から公立中学に通うことになったトモミ。小学校の卒業式を終えて、宙ぶらりんの状態にいる春休みが描かれます。ネジがゆるんでしまった時計の振り子のように、ゆっくり動きを止めてしまった心。変わってしまった自分の気持ちにトモミ自身もまた慣れていました。家族に優しいまなざしを向けることができず、ただ辟易してしまふ。自分が怪物になつてしまった夢を見る。バラバラの家族と行く先の知れない自分は、一体、どうしたらいいのかと戸惑い続けます。物語はトモミの時計が再び動き出すまでの時間を丁寧に描きまわす。意味のないものなどひとつとしてないのだと気づき、自分の憎しみにも向き合っていく。突然の大団円ではなく、いくつかのコマが動いただけのささやかな結末を迎えますが、トモミの心のくくわらずかな変化を愛おしく物語は見せてくれます。

特集 **中学受験に失敗しました。**

無試験で進学できる公立中学ではなく、あえて受験して志望の中学校への合格を目指す十二歳の挑戦は、かならずしも成功するわけではありません。志望校に合格したって人生が上手くいくものではないかもしれませんが、不合格という結果に、人は深く傷つき臆病になります。受験だけが人生じゃないというのは正論ですが、誰に言われたら納得できる台詞でしょうか。実力がなかったからなのか、実力を発揮できなかったからなのか。運に左右されたものだとしたら、余計、口惜しいものです。児童文学では中学受験に失敗した子どもたちを主人公にしながらも、受験やその失敗は主題にはなりません。だって、受験だけが人生じゃないからです。この世界には、それよりも大切なことがたくさんあります。不合格という結果と和解した先に待ち受けている世界。暗いトンネルを抜けたからこそ初めて見えてくる景色もあります。

12歳で死んだあの子は



作者 西田俊也  
出版社 徳間書店  
発行 2019年7月  
ISBN 978-4198648930

review



私立の小学校に通い、ほとんどの生徒がそのまま附属の中学校に進学できるところを、選考試験に落ちて公立中学に進まざるを得なくなった洋詩(ひろし)。中学二年生の秋、小学校高学年のクラスの同窓会に出席した洋詩は、抱つての同級生たちに複雑な気持ちを抱けていました。楽しい思い出でもなかった同窓会を終えて、洋詩が気がかかったのは、六年生の二月に病気で亡くなった同級生(鈴元育朗)について誰一人として口にもせず、忘れられた存在になっていたことです。とくに鈴元と親しくなかった洋詩は、彼が書き遺した詩を読み、元同級生たちから生前の話を聞きだし、次第に彼に興味を覚えていきます。洋詩の知らない時間を生きていた同じ年の少年の姿を知り、その生を慈しみ、死を悼む。多感な時期の揺れる心境を描き出す抒情性あふれる物語です。

木曜日は曲がりくねった先にある



作者 長江優子  
出版社 講談社  
発行 2013年8月  
ISBN 978-4062184069

review



国立中学の学力試験に合格したものの、募集人員以上が合格した場合、抽選で入学者が決められる制度で落選してしまつたことはミズキを深く傷つけました。何にも希望が持てず、毎日色があせて感じられるようになったミズキは、中学に入ったから冬眠することを決意します。心を動かさず、授業にも身を入れず、友だちとも付き合わない。とはいえず、中学校では、いやでも集団活動に巻き込まれていくものです。理科部に勧誘され、そこで小学校の頃に転校したカナトと再会したミズキは、彼が文字や曜日で感じる「共感覚」の持ち主であることを知ります。受験に失敗した失意から人生を見失いつつあったミズキと、まったく違う次元でこの世界と対峙しているカナト。理科部の活動と仲間たちとの交流を通じて、ミズキの心には多くの化学変化が生まれていきます。

特集

中学受験に失敗しました。



超・ハーモニー (魚住直子) 講談社 1997年

志望校に受かったとしても、それで人生が上々になるというわけはありません。受験に成功しても、志望校に進学しなくても学校生活にさまざまな子どもたちの物語もまた多く描かれています。それでも、人生を見つめ直すきっかけは思わぬ形でやってくる。七年前に家出した兄が女性になつて帰ってくる。そんな衝撃が主人公の世界を変えていく物語もあります。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.25

2022年4月1日発行 ● 発行人 きむらともお

事務系社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



Twitter 連携しています。 @tomostretch